

オリエント～前半戦～

オリエント…古代ローマから見た東の地方。

→オリエントは3つに分かれる

- ・メソポタミア…ティグリス川・ユーフラテス川流域
- ・エジプト…ナイル川流域
- ・小アジア(アナトリア)

[メソポタミアの民族]

メソポタミア…川の間土地の意味。ティグリス川・ユーフラテス川流域

肥沃な三日月地帯を中心に農耕文明が成立。

〈今回のポイント〉

シュメール…

アッカド…

アムル…

〈シュメール人〉…民族系統不明、紀元前30世紀～

- ・ウル、ウルク、ラガシュなどの都市国家を建設。
- ・国家ごとに守護神を持つ多神教で神権政治を行った。
- ・青銅器をもちいた。
- ・ウル第一王朝の時全盛期。

シュメール人の都市国家

- ・ウル…聖塔(ジックラト)や王墓を持つ。
- ・ウルク…最古の文書・印章が出土。『ギルガメシュ叙事詩』の舞台になる。
- ・ラガシュ…ウルの北方にある。

シュメール人の発明

- ・楔形文字：粘土板に記述。ローリンソンが解読。
- ・太陰暦や六十進法の発明。
- ・一週七日制、印章の使用。

⇒アッカド人(セム語系)がシュメール人を滅ぼす。

〈**アッカド人**〉 …セム語系、紀元前24世紀～

- ・メソポタミアの北方から**シュメール人を征服**
 - ・**サルゴン1世**の時メソポタミアを統一
- メソポタミア**最初の統一王朝**を立てる。

⇒アッカド人繁栄の後、一時シュメール系の**ウル第三王朝**が勢力をもつ。
創始者：ウルナンム(最古の法典を出した。)

→ウル第三王朝は**エラム人の侵入**で滅亡

〈**アムル人**〉 …セム語系、紀元前18世紀～

バビロン第一王朝(**古バビロニア王国**)を建てる。

都：バビロン(ユーフラテス川中流)

→都市神**マルデュク**は後に最高神となる。

→第6代：**ハンムラビ王**の時、全盛期

- ・ハンムラビ法典を出す。

内容：「目には目を歯には歯を。」の一節で有名。**復讐法**の原則。

身分によって**刑罰差あり**。つまり、奴隷などは例外。

⇒**ヒッタイト**(インド・ヨーロッパ語系)の侵入で滅亡